

## 6 本時の指導（7／8）

### （1）目 標

○ より楽しい運動遊びを選んだり、伝え合ったりしている。

【思考・判断】

### （2）指導にあたって

伊予地区ではこれまで2年間、低学年における「多様な動きをつくる運動遊び」を研究領域に選択し、身に付けさせたい力を分類・整理して、系統だった指導を実践していくことに重点を置いた研究実践を積み重ねてきた。子どもが仲間と関わり合いながら試行錯誤してよりよい動きを身に付けていく活動や、技能を身に付けるための指導過程の工夫を中心に据えた研究を行い、成果を上げてきた。昨年度は、身に付けさせたい力を明確にし、そのための運動遊びを精選するとともに、投力の素地を養うために投げる動きのオノマトペを提示し、効果的に活用させた。また、単元を通して、動きを確認する時間と動きを選び、工夫する時間を設定し、その学習展開を工夫することで、子どもに仲間との関わりを深めながら基本的な動きを身に付けさせた。しかし、多様な投げ方やそれにつながる動きの不足、予想される子どものつまずきに対する手立ての不十分さ、「なかまタイム」以外での仲間との関わり方が課題として残った。そこで、本年度は、対象学年を1年生から2年生に変えて、昨年度の一単位時間の流れや学習展開の仕方を踏襲しながら、オーバーハンドやアンダーハンド、サイドスローなど、多様な投げ方とそれにつながる動きを取り上げる。また、身に付けさせたい基本的な動きを明確化し、予想されるつまずきに対する手立てを講じていきたい。さらに、「する・みる・支える」といった運動との多様な関わりの視点を持ち、子どもに意識させて学習を展開することで、気付いたことを他者に伝える力を養いたい。このようにして、教師と子どもや子ども同士の関わりをより豊かなものへと深化させるとともに「なかまタイム」を通して楽しい運動遊びを見付けさせ、休み時間や家庭での運動の日常化につなげることができるよう単元を構想した。

一次では、単元のオリエンテーションを行う。体ほぐしの運動で構成した「い～よ体操」や「ボールパーク」の3つの運動遊びを体験して、本単元の学習への見通しをもたせたい。また、「なかま」の合い言葉を提示して、活動の目的を意識させる。

二次では、一単位時間の流れをA（動きを確認する時間）とB（動きを選び、工夫する時間）に区別して活動を展開する。どちらもまず、「い～よ体操」を準備運動として行う。次に、課題提示を行う。そして、Aでは、個・ペア・グループへと学習形態や活動内容を変化させる。その際、合い言葉を活用させたり、ペアやグループで見合いながら繰り返し練習する場を設けたりして、基本的な動きを身に付けさせたい。Bでは、「もとの運動遊び」を基に、より楽しい動きや場を試行錯誤しながら選んでいく時間を「なかまタイム」として設定し、運動遊びの楽しさに気付かせる。同時に、ビデオカメラを常設し、なかまタイムで子どもが見付けた運動遊びを蓄積して、三次に生かしたり休み時間の遊びに広げたりすることができるようにする。最後に、課題に対する振り返りを行い、次時の見通しをもたせて学習意欲を高く維持できるようにしたい。

三次では、二次で体験した体づくり運動の楽しさを全体で共有する。そのために、「なかまタイム」で見付けた仲間との関わりが深まる運動遊びを「岡田ボールパーク」として設定し、全てのグループで行う。また、これらの運動遊びを今後も発展させていくように呼び掛けたり、様々な運動遊びができる場を設定したり、遊びを促したりすることで、運動の日常化に努めたい。

本時は、二次の6時間目で、前時に体験した力試しと用具操作の動きの中から、楽しい動きを選び、運動遊びを工夫して行うBの時間である。力試しでは、人を運ぶ動きを、用具操作では、ボールを両手で投げる動きを取り上げる。まず、「もとの運動遊び」の行い方を確認し、合い言葉を意識させたり、動きや用具の選択肢を与えたりする。その後、「キャリー&スローリレー」をより楽しい運動遊びにするという目的を明確にさせ、「なかまタイム」を行う。楽しい運動の行い方を選ぶために仲間と相談したり、他のグループに紹介したり、くじで動きや用具を決めて行う競争をしたりする時間を設けることで、子どもが主体的に仲間と関わり、伸び伸びと運動遊びに取り組むことができるようにしたい。最後に、学習を振り返り、できるようになったことを確認したり、次時への意欲を高めたりしたい。

(3) 準備 学習カード、CD ラジカセ、レジボール、カラーコーン、合い言葉、オノマトペ、くじ、敷物（毛布・キャリー・段ボール・タイヤ等）、棒、ロープ 等

(4) 展開

学習活動 (分)	○ 教師の働き掛け	◎ 評価 (評価方法)
1 準備運動として「い～よ体操」を行う。 (3)	○ 体のどの部位を動かしているのか意識をさせる。 ○ 音楽に合わせて体操しながら明るい雰囲気を作り、運動遊びへの意欲を高める。 ○ 本時の課題を確認し、運動遊びの目的を明確にさせる。 ○ 「なかま」の合い言葉や投げる動きのオノマトペを確認し、意識させる。	
2 学習課題を確認する。(2)	ふんばりエリアでいろいろな遊びを見付けよう！	＜オノマトペ＞ ～両手のオーバーとアンダー～
3 基本的な動きを確認する。(5)	○ オノマトペを活用するように促しながら、両手のオーバーハンドとアンダーハンドでのキャッチボールを行う。	投げる前の動き T「せーの」
4 もとにする運動遊びを確認する。(7)	○ 自分の力に応じて投げる距離を選ぶことができるように、6種類の場を用意する。 ○ 前時に行ったキャリー&スローを想起させる。 ○ 子どもの実態に応じて動きを繰り返させたり、助言を行ったりして、ボールを投げる動きや人を運ぶ動きを身に付けさせる。	投げる動き 「ぐう～・・・ びゅんっ！」
5 「なかま」タイムを行う。(20)	○ より楽しい運動遊びを選んだり、伝え合ったりすることができるように「なかまタイム」を行う。 ① より楽しい運動の行い方（敷く物・運び方）を相談し、行う。 ② グループ毎に見付けた運動の行い方を紹介する。 ③ グループ毎に競争に取り入れる運動の行い方を試してみる。 ④ グループ対抗の競争をする。	捕る動き 「ガブッ」
6 振り返りを行う。(5)	○ 「なかまタイム」で選んだ運動遊びについて、楽しい遊びを伝え合うことができたかを振り返ることで、敷く物や運び方・投げる場を選ぶなどの工夫をすれば、より楽しい運動遊びとなることに気付かせる。 ○ 学習カードを書かせたり、感想を発表させたりして本時を振り返らせる。	◎ より楽しい運動遊びを選んだり、伝え合ったりしている。 〈思・判〉 (観察・学習カード)
7 整理運動をする。(3)	○ よく動かした部位を意識させて、整理運動を行う。	

(もとにする運動遊び・・・「キャリー&スロー」：1チーム4・5人/レジボール/毛布の上の友達を引く)

なかまタイムの展開

→ ①相談A（用具：敷く物）②相談B（動き：運び方）③紹介④共有⑤競争

\*⑤競争について

㊦ スタートラインからスローラインまでくじに記された敷物で友達を一人運び、スローラインから天井に向かってレジボールを投げて、スタートラインまで行きと同じように運び、2回目（2人目）を行う。全部で3往復（3人が運ばれる）する。スローラインは（近い・中間・遠い）×（低い・高い）の6種類とする。紹介の際、おもしろい運び方は採用する。くじには敷くものを記述する。運ぶ際には、友達が落ちないように支える役も分担させる。

[なかまタイムの運動の行い方の工夫例]

○敷く物（用具）・・・毛布、段ボール、キャリー、タイヤ etc

○乗り方（動き）・・・座る（体操座り、胡坐、長座）、立つ、寝ころぶ（棒、縮こまる）etc